

鳥取大学医学部附属病院のがんゲノム医療について

「がん遺伝子パネル検査」を考えておられる先生は、以下の内容をご理解いただいた上で、必ず当院該当診療科の医師と調整の上、ご紹介いただきますようお願いいたします。（事前調整のない紹介はお控えください）

（１） がん遺伝子パネル検査とは

がん細胞の特徴をゲノム解析によって網羅的に調べ、がんに関連する多数の遺伝子の状態を確認することを通して、患者さんのがんの特徴を調べ、適切な薬剤や治療法、参加できる可能性がある臨床試験・治験の有無を専門家チームが検討し、その結果をお伝えする検査です。

（２） 当院で実施しているがん遺伝子パネル検査について

現在、当院で実施している検査は以下のとおりです。

- ① FoundationOne® CDx がんゲノムプロファイル（保険診療）
- ② FoundationOne® Liquid CDx がんゲノムプロファイル（保険診療）
- ③ OncoGuide™ NCC オンコパネルシステム（保険診療）
- ④ Guardant360®CDx がん遺伝子パネル（保険診療）
- ⑤ GenMineTOP® がんゲノムプロファイリングシステム（保険診療）
- ⑥ ヘムサイト 造血器腫瘍遺伝子パネル検査（保険診療）

（３） がん遺伝子パネル検査を希望する患者さんへ伝えていただくこと

まず、以下のことを必ず患者さんにご説明ください

- ・ 検査の結果、今後の治療に役立つ情報が得られない可能性があること。
- ・ 検査を受けた患者のうち、検査結果に基づいた治療が受けられるのは、約１割程度に留まっていること。
- ・ 解析に用いた検体の品質や量によっては解析自体が不成功に終わる可能性があること。

（４） がん遺伝子パネル検査の対象患者条件について

固形腫瘍の場合、「標準的な治療法が確立されていない希少がんや原発不明がんの方」又は「標準治療が終了となった、あるいは終了が見込まれている固形がんの方」で、全身状態や臓器機能等から、がん遺伝子パネル検査実施後に、化学療法の適応となる可能性が高いと主治医が判断した方が対象となります。また、造血器腫瘍の対象となる方は、当院がんゲノム医療部門Webサイトの「概要」ページの「適応等（造血器腫瘍）」をご参照ください。

（５） エキスパートパネルへの参加とがんゲノム情報管理センター（G-CAT）情報登録事業について

がん遺伝子パネル検査の結果は、がんゲノム医療中核拠点病院（岡山大学病院）などと多職種によるWeb会議（エキスパートパネル）での検討を経た上、患者さんに治療方針等について説明を行います。エキスパートパネル構成員の要件として「エキスパートパネルにおいて検討を行う対象患者さんの主治医または当該主治医に代わる医師が参加すること」が定められておりますので、ご紹介元の先生にエキスパートパネルへの参加をお願いする可能性があります。

また、G-CAT へのデータの提出の同意を得た患者さんについては、ご紹介時に患者さんの臨床情報、エキスパートパネル開催前後の薬物療法の情報、転帰情報等を適宜、ご提供いただくこととなります。

（６） 検査後の治療等について

がん遺伝子パネル検査は、現在通院中の主治医の判断に必要な情報を提供するものです。そのため、検査後の治療は、現在治療を行っている主治医の判断となります。

検査結果が、主治医の判断よりも優先されることはありません。